

## 4.2 河川管理との関わり（河川の自然度・健全度）

河川には、河口域などに広がるヨシ原や、洪水などによる攪乱によって成立する裸地や砂礫川原など特有の環境がみられ、様々の種に生息場（ハビタット）を提供しています。ここでは、河川環境に関わりの深い種の確認状況を整理しました。

### 【河川に関わりの深い種（オオヨシキリ、コヨシキリ）の確認状況】

（鳥類調査）

- ・ オオヨシキリは6河川すべてで確認、コヨシキリは3河川で確認

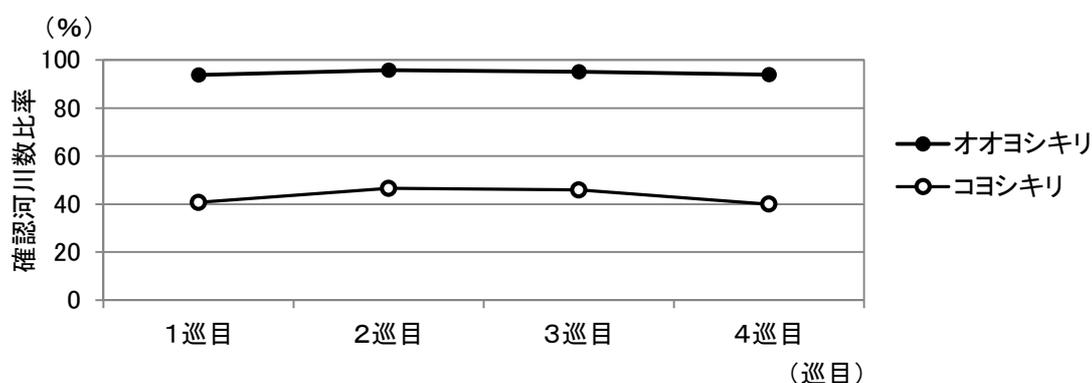
ヨシ原で繁殖する代表的な鳥であるオオヨシキリとコヨシキリの確認状況を整理しました。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った6河川すべてで、コヨシキリは3河川で確認されました。確認個体数をみると、オオヨシキリが東北地方の北上川で下流から上流まで多く確認されました。

（資料掲載：4-12～4-13 ページ、4-42～4-43 ページ）

### 1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川)	2巡目 (118河川)	3巡目 (122河川)	4巡目 (115河川)
オオヨシキリ	76河川 〔93.8%〕	113河川 〔95.8%〕	116河川 〔95.1%〕	108河川 〔93.9%〕
コヨシキリ	33河川 〔40.7%〕	55河川 〔46.6%〕	56河川 〔45.9%〕	46河川 〔40.0%〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ ( ) 内は調査実施河川数を示す。

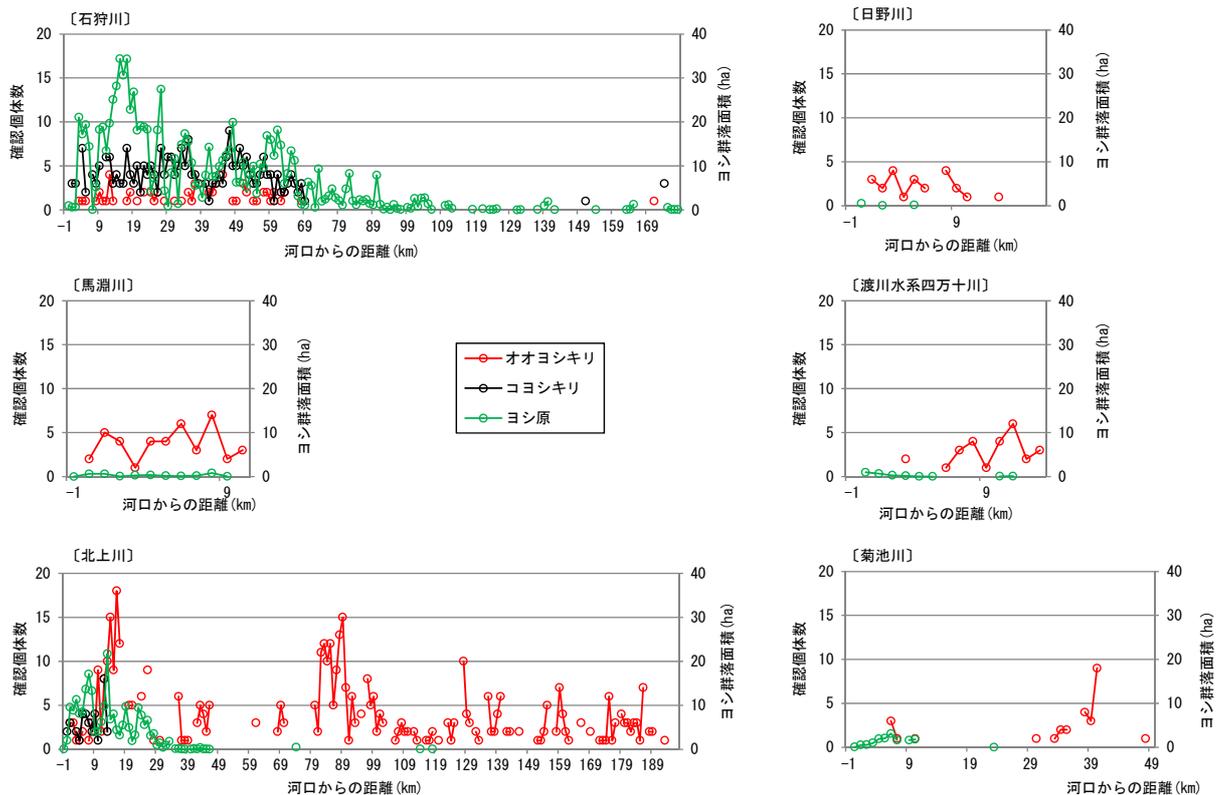
※ [ ] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。

※ 4巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。

オオヨシキリは、東南アジアから渡来する夏鳥で、全国の水辺のヨシ原に生息する種です。海岸や河口、川岸、湖岸のヨシ原で普通に繁殖します。コヨシキリも同様に夏鳥で、全国の水辺のヨシ原にも生息しますが、ススキやヨモギなどが茂った乾いた草原に多くみられます。東日本では低地でも繁殖しますが、西日本では標高の高いところの背の高い草原で繁殖します。両種は、ともに昆虫類等を餌とします<sup>注1)</sup>。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った6河川すべてで、ヨシキリは、3河川で確認されました。オオヨシキリ、コヨシキリの1kmピッチの繁殖期の確認个体数とヨシ群落の1kmピッチの分布状況を次図に示しました。北海道地方の石狩川では、ヨシ群落は上流まで広く分布していましたが、オオヨシキリ、コヨシキリは上流ではほとんど確認されませんでした。オオヨシキリは、標高の低いところに分布する水辺に近いヨシ群落を好み、また、連続しない小さく分断化されたヨシ群落では生息確率が低いことが知られています<sup>注2)</sup>。一方、本州以南の河川ではオオヨシキリは、ヨシ群落のない上流でも広い範囲で確認されました。オオヨシキリは、営巣は主にヨシ群落を利用しますが、普段の活動ではヨシ群落以外の環境も広く利用していることがわかります。コヨシキリは、石狩川ではオオヨシキリと同様に広い範囲で確認できましたが、東北地方の北上川では主に下流で確認されました。

1～4巡目調査全体での確認状況を比較すると、調査実施河川数に占める確認された河川数の割合に大きな差はみられませんでした。

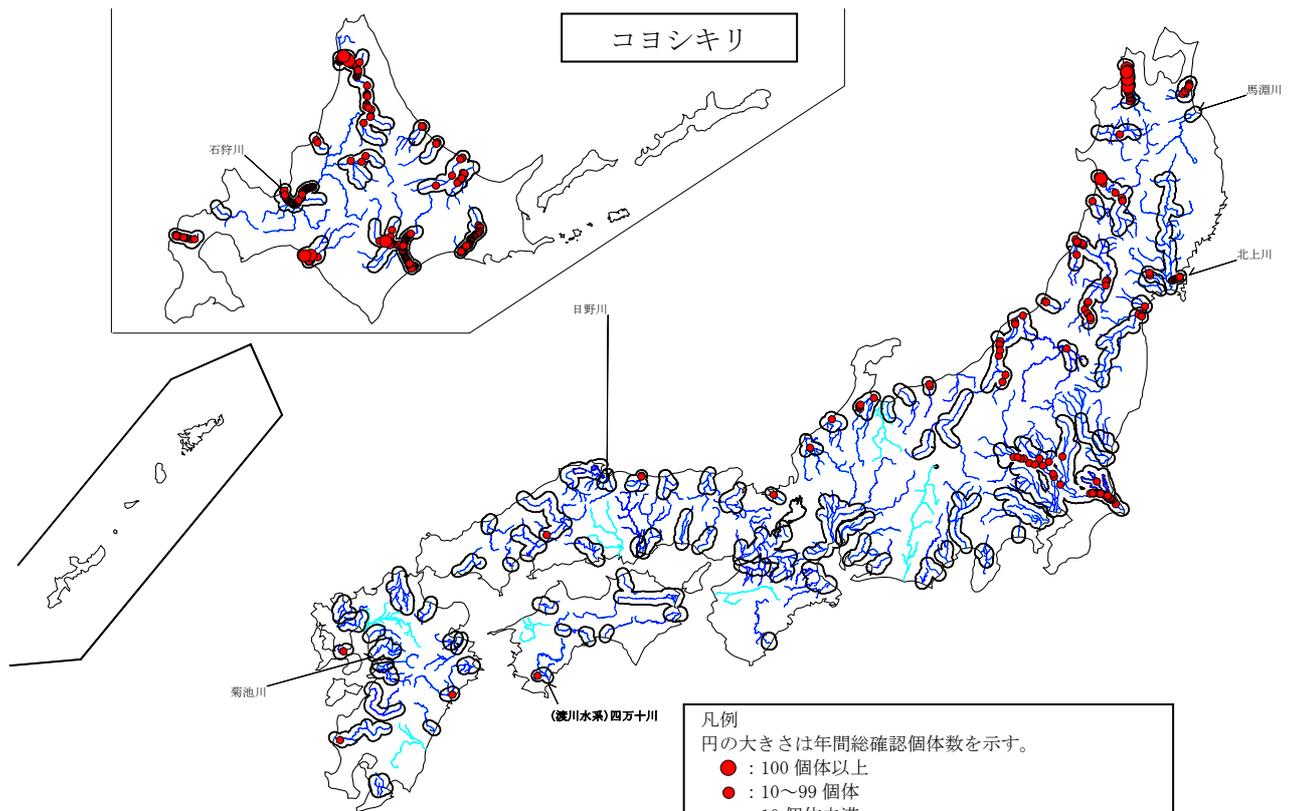
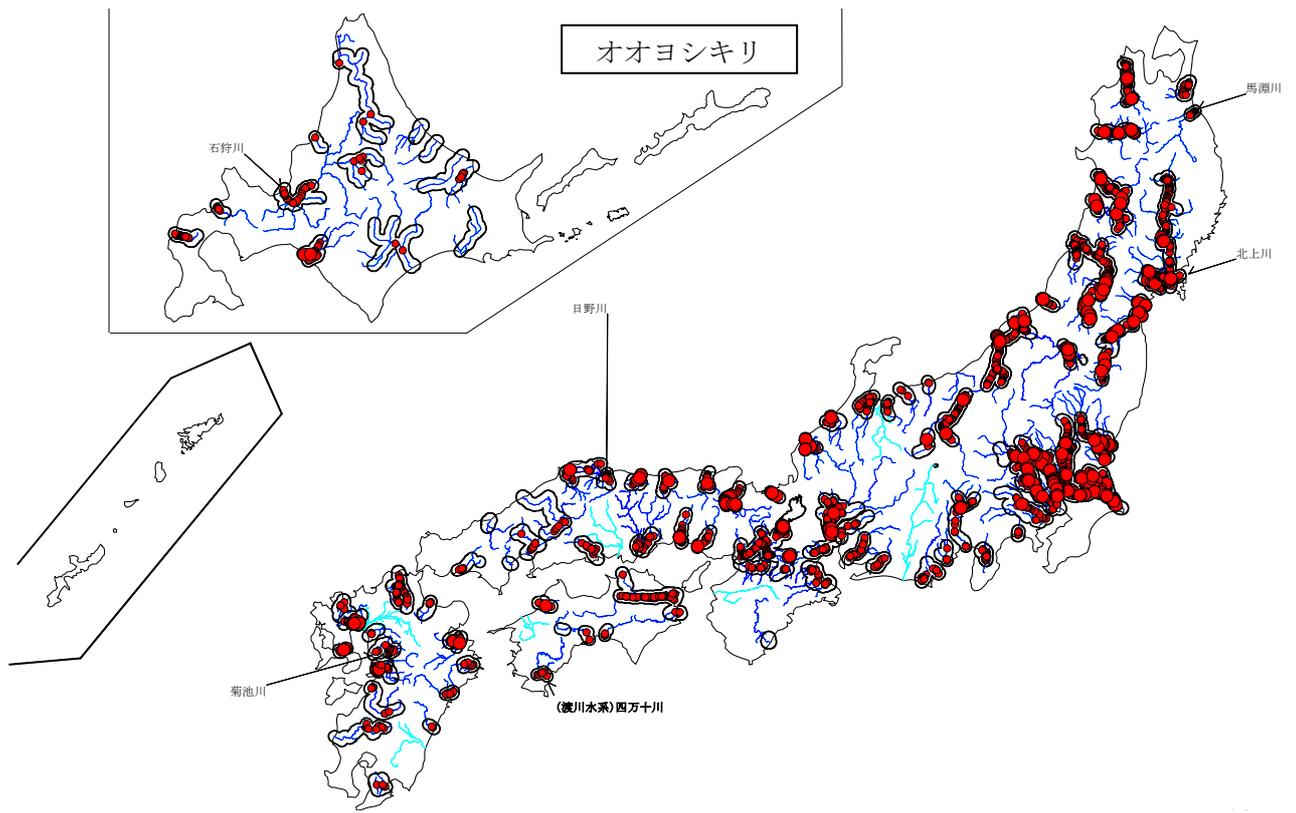


注) 集団分布地調査及び移動中の確認は含まない

本川における繁殖期のオオヨシキリ、コヨシキリの  
1kmピッチの確認个体数とヨシ群落の1kmピッチの分布

注1) 出典：原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>。1995。保育社。

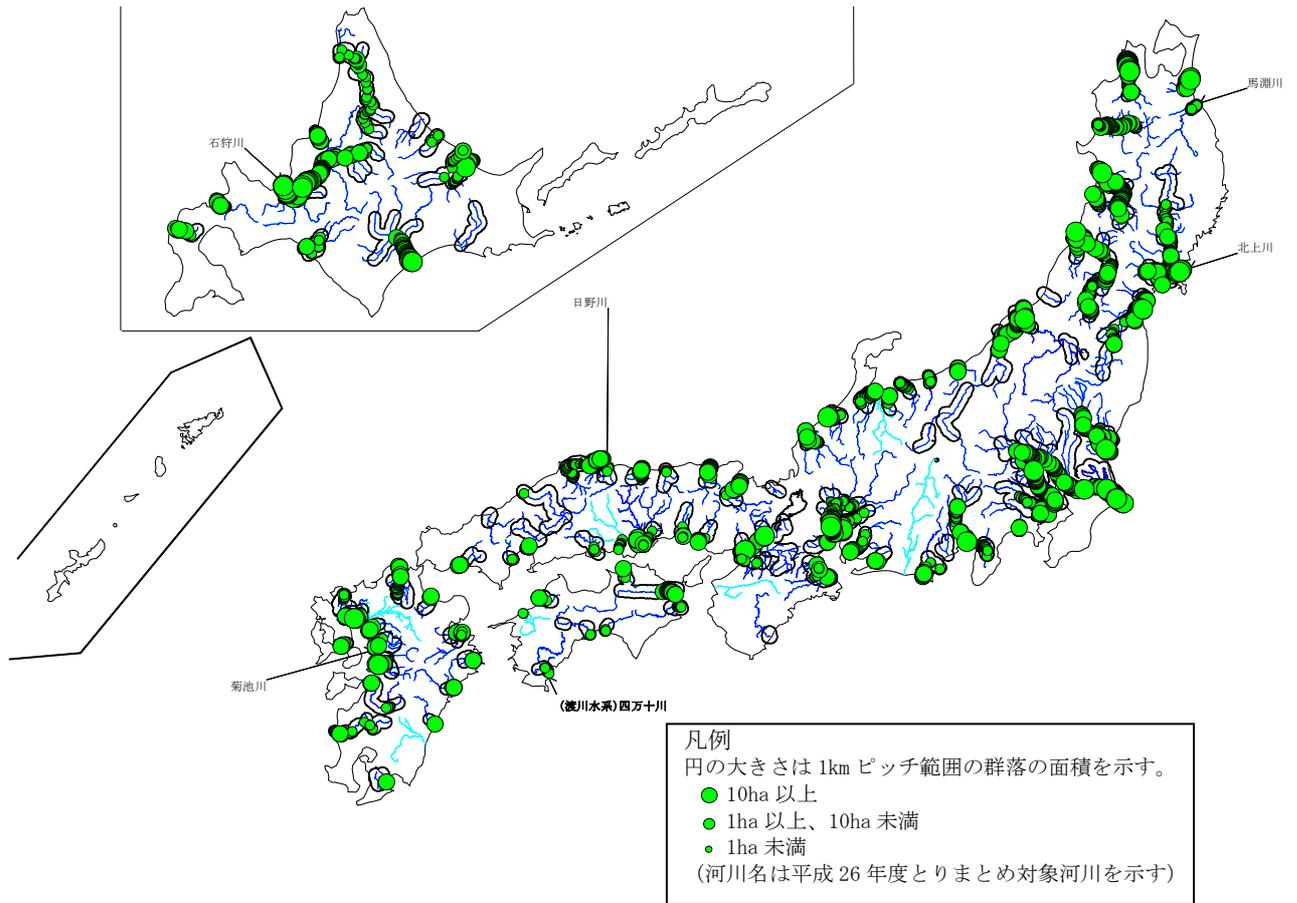
注2) 出典：永田尚志。2005。ヨシ原の分布とオオヨシキリの生息分布の予測。国環研ニュース、24(3)。国立研究開発法人 国立環境研究所。



凡例  
 円の大きさは年間総確認個体数を示す。  
 ● : 100 個体以上  
 ● : 10~99 個体  
 ● : 10 個体未満  
 ○ : 4 巡目調査 1km スポット設定範囲を示す。  
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)  
 (河川名は平成 26 年度とりまとめ対象河川を示す)

注) 4 巡目調査は調査実施途中で、— は、調査未実施の河川を示す。

オオヨシキリ・コヨシキリの確認スポット (4 巡目調査)



参考図 4 巡目鳥類調査実施河川の1kmピッチのヨシ群落の面積

【河川に関わりの深い種（コアジサシ、コチドリ、イカルチドリ）の確認状況】 （鳥類調査）

- ・ 砂礫河原で営巣するコアジサシを本州以南の2河川、コチドリを6河川すべてで、イカルチドリを5河川で確認

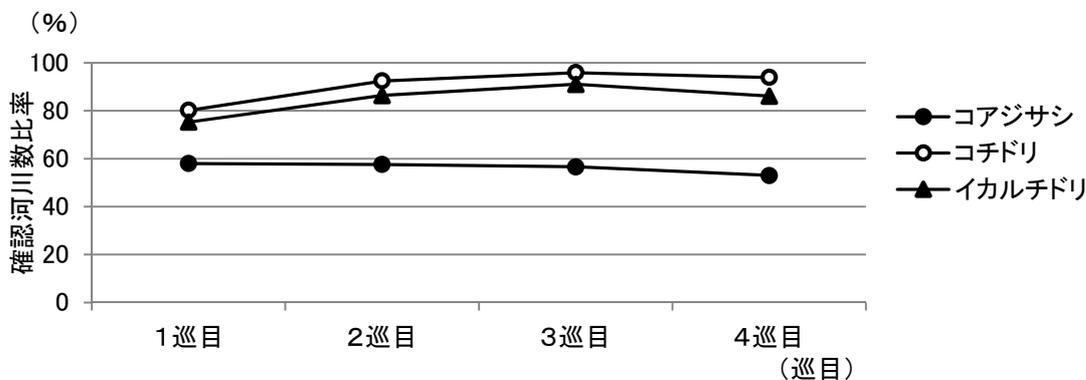
河川での砂礫河原や砂洲の状況を把握するため、砂礫地で営巣するコアジサシ、コチドリ、イカルチドリの確認状況を整理しました。

コアジサシは、今回とりまとめを行った6河川のうち、本州以南の2河川で確認されました。コチドリは6河川すべてで、イカルチドリは5河川で確認されました。確認位置をみると、コチドリ、イカルチドリは下流から上流まで広く確認されました（コアジサシは、調査者が移動中に確認しました）。

（資料掲載：4-16～4-17 ページ、4-42～4-43 ページ）

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目 (81河川)	2巡目 (118河川)	3巡目 (122河川)	4巡目 (115河川)
コアジサシ	47河川 〔58.0%〕	68河川 〔57.6%〕	69河川 〔56.6%〕	61河川 〔53.0%〕
コチドリ	65河川 〔80.2%〕	109河川 〔92.4%〕	117河川 〔95.9%〕	108河川 〔93.9%〕
イカルチドリ	61河川 〔75.3%〕	102河川 〔86.4%〕	111河川 〔91.0%〕	99河川 〔86.1%〕



※ 確認河川数の比較は、直轄管理区間のデータを対象とした。

※ 1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象とした。

※ ( ) 内は調査実施河川数を示す。

※ [ ] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。

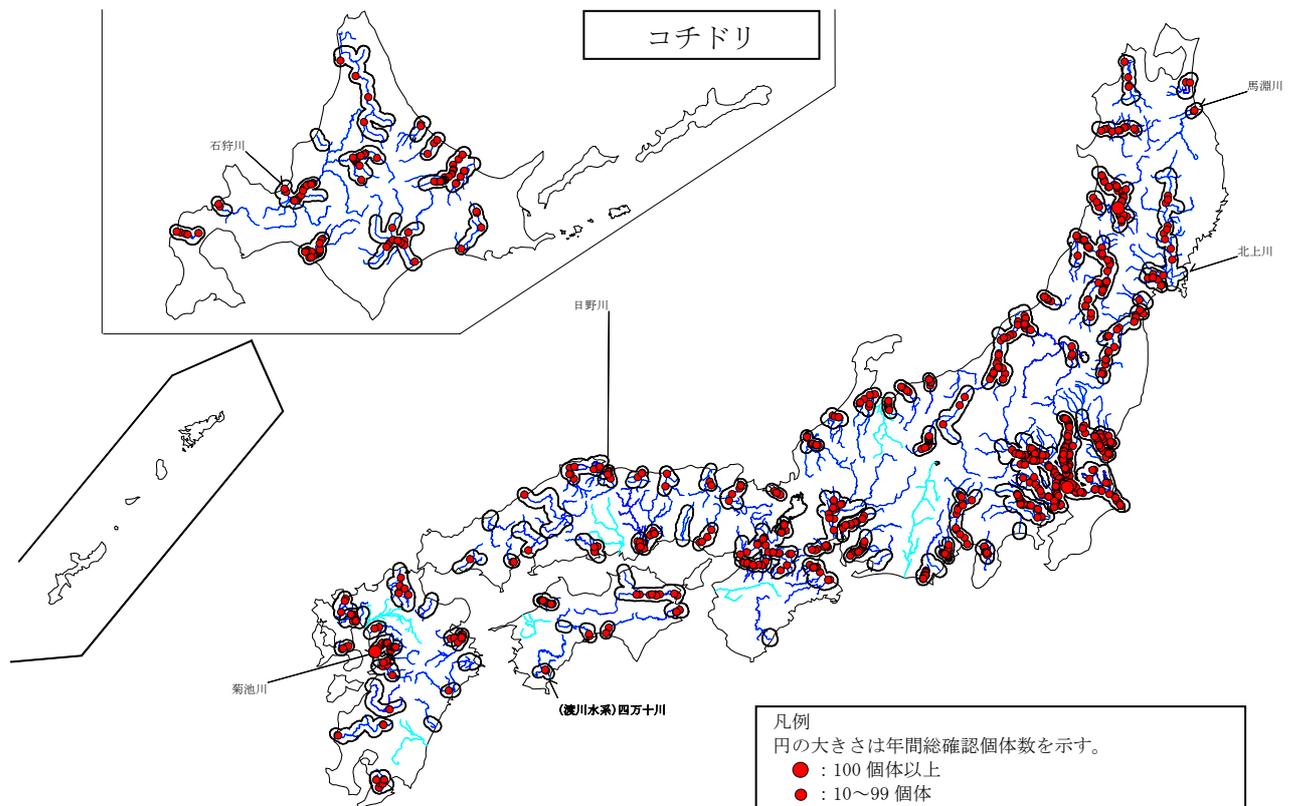
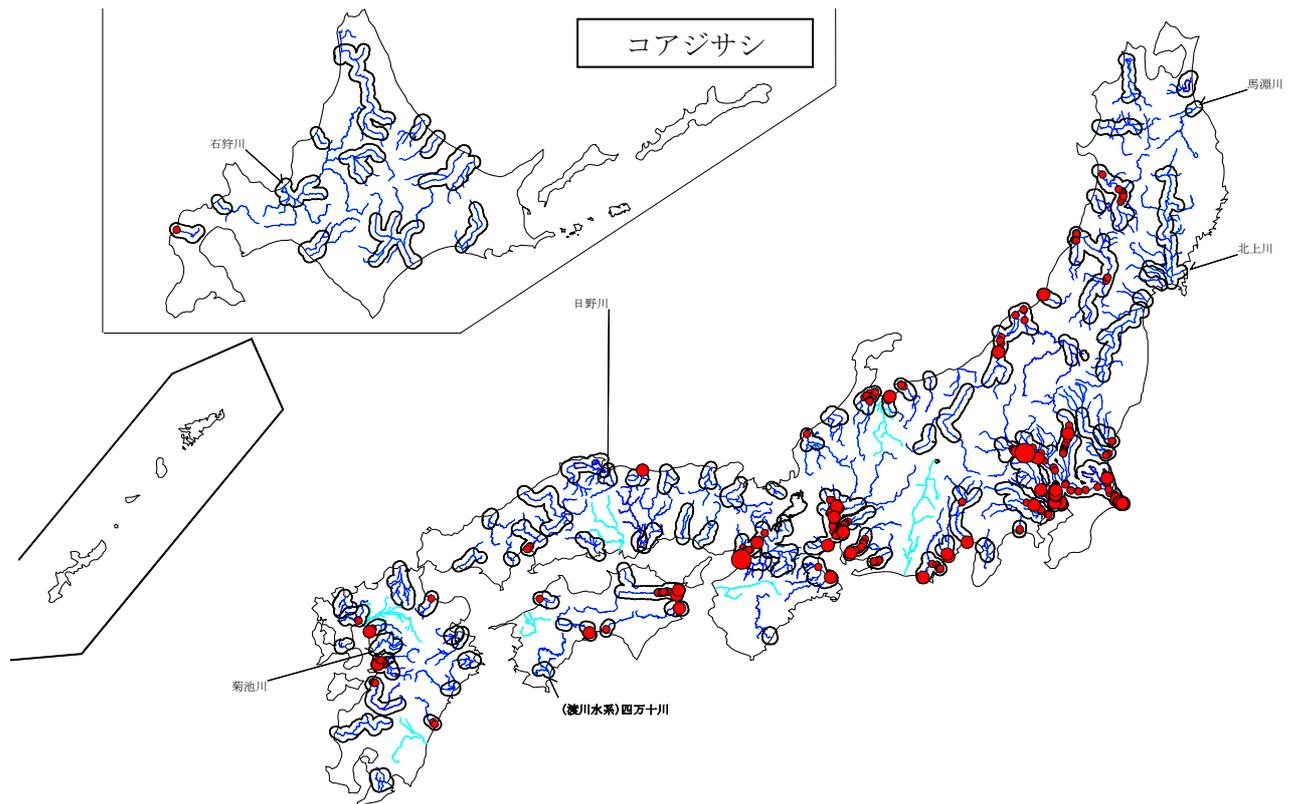
※ 4巡目からは、調査方法を調査地区対象のラインセンサス調査から河川全体の調査箇所における分布の確認を主としたスポットセンサス調査に変更した。

コアジサシは赤道を越えてオーストラリアから渡ってくる夏鳥です。日本では本州以南（西）でみられ、海岸や大きな川の河口や中洲のような、砂や砂利の上に簡単な巣を作って2～3個の卵を産みます。個体数が減少傾向にあるといわれ、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。コチドリは、主に夏鳥として飛来し、川の中流から下流の砂礫河原、海岸の砂丘や埋立地などに営巣し、全国で繁殖します。イカルチドリは、日本では留鳥として本州以南（西）で繁殖します。主な生息場所は、コチドリよりも上流の河原で、氾濫原の礫の多いところで営巣し、砂や土の多い埋立地では繁殖しません<sup>注1)</sup>。

コアジサシは、今回とりまとめを行った6河川のうち、本州以南の2河川で確認されました。コチドリは6河川で、イカルチドリは5河川で確認されました。確認位置をみると、コチドリ、イカルチドリは下流から上流まで広く確認されました（コアジサシは、調査者が移動中に確認しました）。

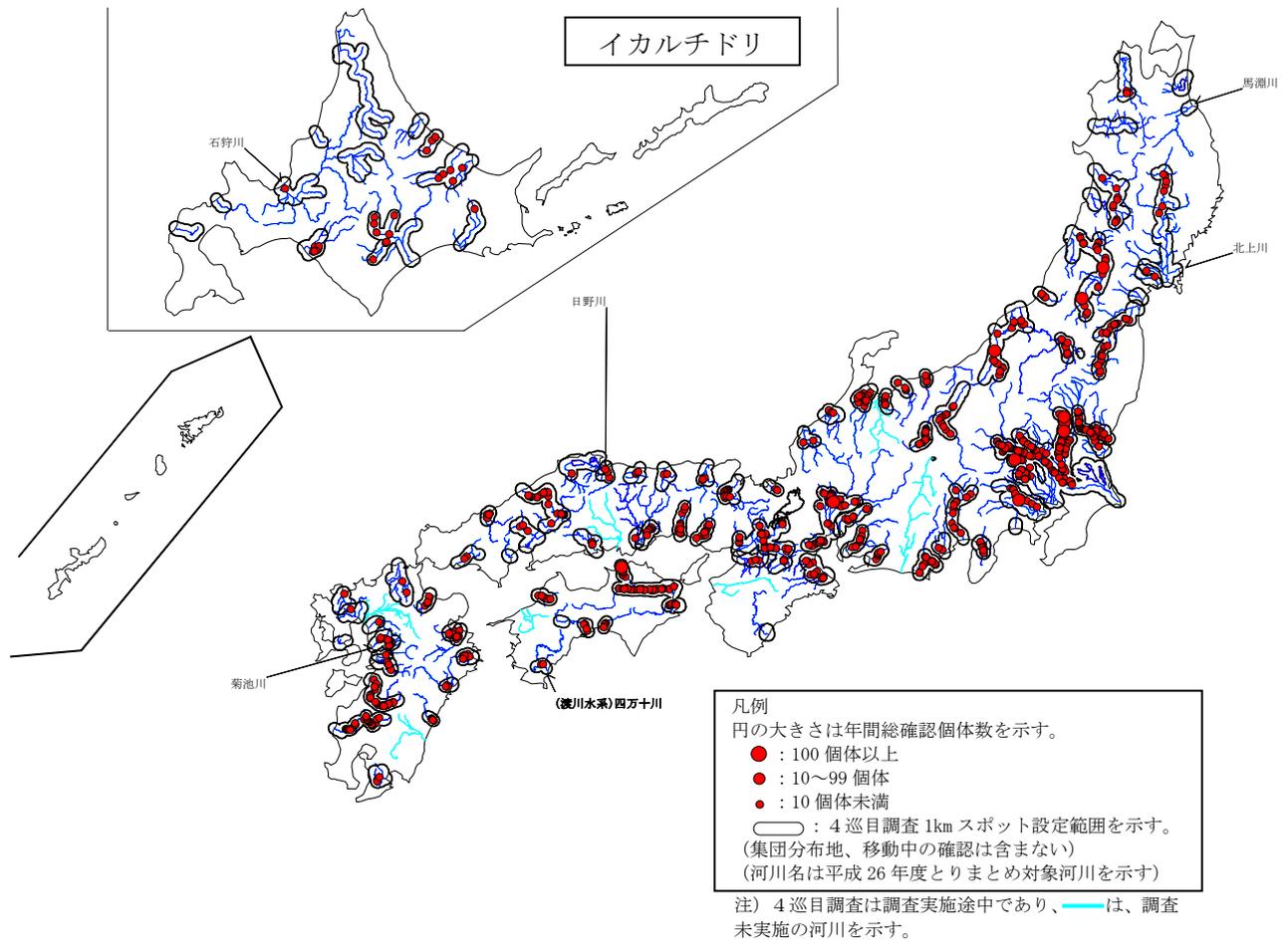
1～4巡目調査全体での確認状況を比較すると、調査実施河川数に占める確認された河川数の割合に大きな変化はありませんでした。

注1) 出典：川の生物図典．1996．財団法人リバーフロント整備センター．山海堂．

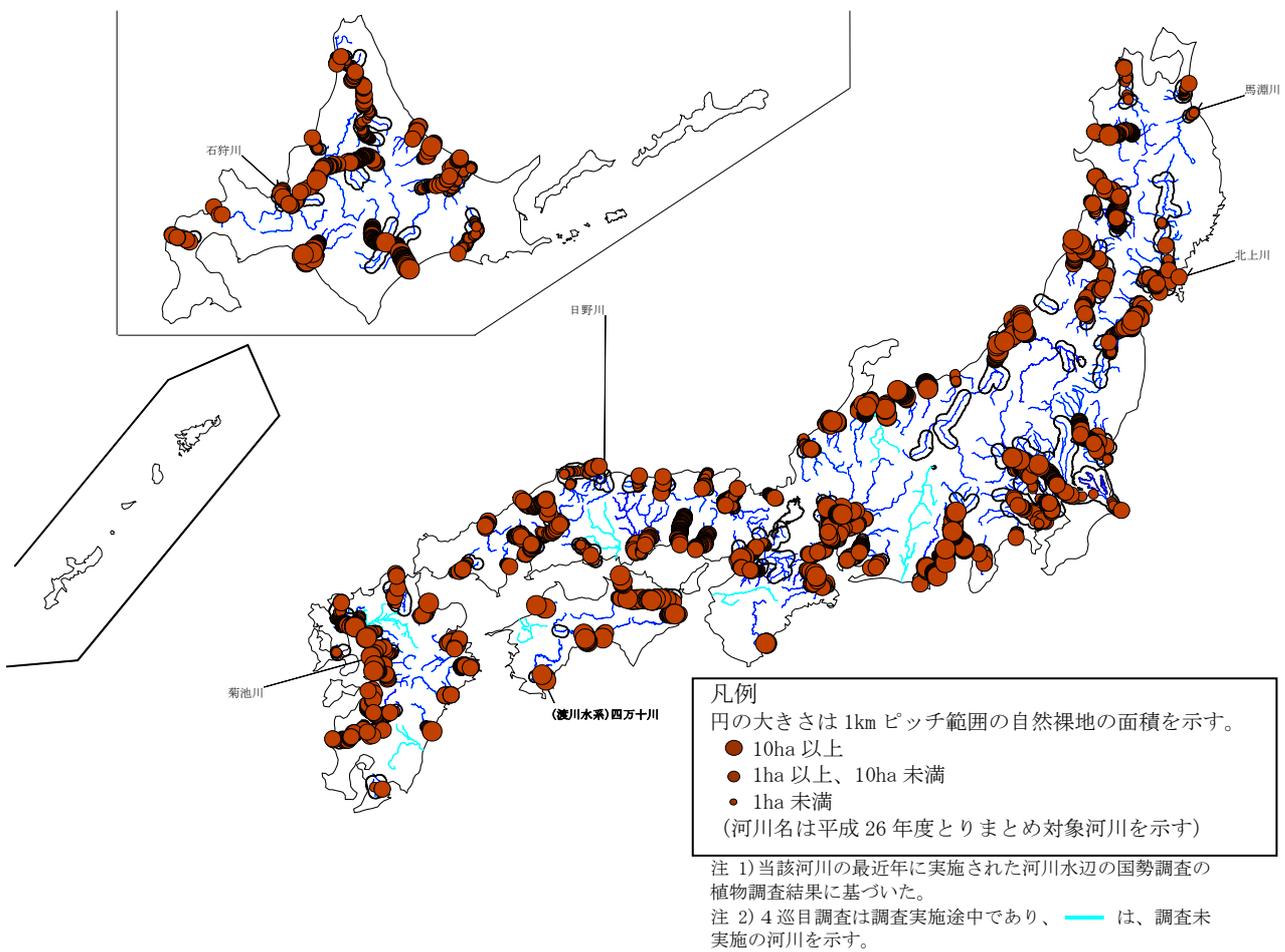


凡例  
 円の大きさは年間総確認個体数を示す。  
 ● : 100 個体以上  
 ● : 10~99 個体  
 ● : 10 個体未満  
 ○ : 4 巡目調査 1km スポット設定範囲を示す。  
 (集団分布地、移動中の確認は含まない)  
 (河川名は平成 26 年度とりまとめ対象河川を示す)  
 注) 4 巡目調査は調査実施途中で、— は、調査未実施の河川を示す。

コアジサシ・コチドリの確認スポット (4 巡目調査)



イカルチドリの確認スポット (4 巡目調査)



参考図 4 巡目鳥類調査実施河川の 1km ピッチの自然裸地の面積  
4-17